

第2回第10採択地区協議会 議事録

| | | | |
|-------|-----------------|--------------------|------------|
| 開催年月日 | 令和5年7月12日（水） | | |
| 開催場所 | 三芳町役場 3階 301会議室 | | |
| 開催時間 | 13:00 ~ 16:30 | | |
| 教育委員会 | 出席者 | | |
| 富士見市 | 山口 武士 教育長 | 宮 陽一 教育長職務代理者 | |
| | 深井美千代 教育委員 | 横田豊三郎 教育委員 | 深野はるみ 教育委員 |
| ふじみ野市 | 朝倉 孝 教育長 | 富田信太郎 教育長職務代理者（欠席） | |
| | 茂井万里絵 教育委員 | 西山 幸吉 教育委員 | 吉野 榮 教育委員 |
| 三芳町 | 古川 慶子 教育長 | 池上 善一 教育長職務代理者 | |
| | 細谷 雄司 教育委員 | 島田 喜昭 教育委員 | 多胡 晴子 教育委員 |
| | 専 門 員 長 | 事 務 局 | |
| 各種目1名 | 計12名 | 学校教育課長 | 石川 聖徳 |
| | | 指導主事 | 古賀 崇 |

議 事 録

| | |
|---------------|--|
| 第2回第10採択地区協議会 | <p>（司会） ふじみ野市教育委員会 副参事兼学校教育課長 石川聖徳 （出席者）上記</p> |
| 1 開 会 | <p>（司会） 皆様、こんにちは。 ふじみ野市教育委員会副参事兼学校教育課長の石川でございます。どうぞよろしくお願いいたします。 ただいまより第2回第10採択地区協議会を開会いたします。なお、本会議は議事録を作成いたしますので、録音をさせていただきますことをあらかじめご了承ください。</p> |
| 2 あいさつ | <p>（司会） はじめに第10採択地区協議会 会長 朝倉 孝が ご挨拶申し上げます。</p> <p>（第10採択地区協議会 朝倉 孝 会長） 皆様、改めましてこんにちは。 本日はお暑い中、またご多用の中、第2回第10採択地区協議会にご出席</p> |

| | |
|-------------|---|
| | <p>いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>第1回協議会の後に、専門員等による教科書の調査研究を進めてまいりました。</p> <p>また、各学校の教職員、そして一般の方々の展示会等で教科書を見ていただきまして、それぞれ学校また委員の皆さんにおかれましても、研究をされてきたものと推察しております。</p> <p>この後、専門員長の方から、各種目の調査結果の説明がございました。</p> <p>ぜひこの調査結果の内容等について、ご疑問等がある場合にはご質問をいただきながら、ご理解を深めていただければ大変ありがたいと思っております。</p> <p>本日の会議は長時間にわたると思います。おそらく4時半を回ることもあるのではないかと思いますので、ぜひ室内の中においても、熱中症等の危険もございますので、水分を摂りながら、この会議を進めてまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。今回この会議におきましては、慎重審議をいただきまして、ぜひ地区内の子どもたちにとって最適な教科書が選択できるよう、皆様のご協力をお願い申し上げたいと思います。本日はどうぞよろしく願いいたします。</p> |
| <p>3 説明</p> | <p>(司会)</p> <p>次に、本日の協議会について、事務局よりご説明申し上げます。</p> <p>(事務局)</p> <p>ふじみ野市教育委員会学校教育課の古賀でございます。</p> <p>お手元の次第をご覧いただきたいと存じます。</p> <p>議長につきましては、協議会要綱第6条により、会長に議長をお願いいたします。</p> <p>次に、本日の流れです。本日は、令和6年度使用小学校教科用図書について、専門員による調査研究結果を報告していただきます。</p> <p>各教科の調査結果を報告した後、質疑応答の時間を設定いたします。以上でございます。</p> <p>(司会)</p> <p>ただいまの説明につきましてご質問等はございますか。</p> <p>それでは、これより、議長を 朝倉 会長をお願いいたします。</p> <p>(議長)</p> <p>第10採択地区協議会要綱第6条の規定により本日の議長を務めさせていただきます。適切な選定に向けた慎重な協議がなされますようご協力をお願いいたします。</p> <p>なお本会議については要綱第10条に基づき、非公開とすべき項目の有無について確認をいたします。このことについて、事務局提案はございますか。</p> <p>(事務局)</p> <p>第1回協議会で、会議は全て公開とすると決定しております。</p> <p>したがって、本会議につきまして、非公開とすべき項目はございません。</p> <p>(議長)</p> |

事務局から、特に非公開とすべき項目がないとありましたが、委員の皆様はよろしいでしょうか。

(委員) (全員承認)

(議長)

それでは専門員の教科用書研究結果の報告及び質疑については、すべて公開することで協議を続けさせていただきます。

なお、ガイドラインに基づき、採択期間中の教科書発行者による接触は禁止されております。万が一接触を試みる教科書発行者があった場合には、事務局まで報告をお願いいたします。もし、そのような行為が報告された場合には、ガイドライン(4)②のとおり「教科書発行者による不適切な行為や公正取引委員会の警告も勘案して、教科書を採択する。」ことといたします。

委員の皆様は、その方向でよろしいでしょうか。

(委員) (全員承認)

(議長)

それではこれより各教科の研究結果報告を行います、ここで一点お諮りをいたします。

理科及び生活の調査研究にあたって、一般社団法人信州教育出版社の教科用図書については、研究用見本本の提供が行われなかったため、第10採択地区において調査研究は行われておりません。

しかしながら、教科書目録には掲載されておりますので、このことから一般社団法人信州教育出版社の内容につきましては、県の調査資料を参考にし、選定の対象に含むこととしたいと思いますが、皆様、それでよろしいでしょうか。

(委員) (全員承認)

(議長)

4 報告及び質疑

それではよろしいということですので、国語の報告から始めます。専門員長を入室させてください。

(議長)

それでは、国語について説明をお願いします。

(専門員長)

皆さん、こんにちは。私は国語科の専門員長を務めます、富士見市立鶴瀬小学校教頭の濱野です。よろしくお願いいたします。

これより国語科調査研究の結果を説明いたします。

国語科では3者について調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、3つ設定いたしました。

一つ目は、知識及び技能が習得できるようにするための工夫について。二つ目は、学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫について。三つ目は、

その他として設定し、その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。

それでは、はじめに東京書籍について、調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに、知識及び技能が習得できるようにするための工夫についてご説明いたします。東京書籍では、漢字の広場、読書の広場、言葉の広場、言葉の文化、広がる言葉、言葉の相談室など小単元が多く設定されており、多様な言語活動で習得した言葉を活用することで、児童の学びが広がっていくと考えます。また、「情報のとびら」として、読むことと書くことを関係づけるような内容のページも設定されており、児童が学習したことを活用しやすい工夫がされています。

次に、学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫についてご説明いたします。単元のはじめのページに特徴があり、単元の学習の流れや学習内容が見開きで示されており、大きな挿絵等で児童の興味をひくとともに、その単元で何を学ぶのか見通しをもたせ、主体的に学習できるよう工夫されています。また、単元のおわりのページでも、その単元でどんなことを学んだのか、学習の振り返りを見開きで具体的に示し、日常の活動に生かすことができるように工夫がされています。また、読み取ったことを活用して書く活動が行えるような単元配列がされており、読むことと書くことの学習を関連づけながら児童が意欲的に学習に取り組み、考えを深めることができるよう工夫がされています。

最後に、その他についてご説明いたします。東京書籍ではQRコードが多く掲載され、デジタル資料の動画や練習問題等のコンテンツが非常に充実しております。また、挿絵が大きく迫力のあるものが多く、児童の興味関心をひき、児童が作品に引き込まれる効果もあると考えます。配慮が必要なことといたしまして、1年間の最終単元が書くことになっていることです。その学習内容は、1年間書きためたものをまとめたりする学習が多く、1年間書いてきたものを保管しておく必要性や、書くことには個人差も大きく、時間を要する可能性もあることから、学習進度などに教員側の配慮が必要となってくると考えます。

次に教育出版についてご説明いたします。

はじめに、知識及び技能が習得できるようにするための工夫についてご説明いたします。教育出版では、季節や自然、身近な場面と言葉に興味関心をもつことができる教材を多く取り扱っており、児童が楽しみながら言葉の習得ができるよう工夫されています。そうして習得した言葉は日常の身近な場面で活用しやすいとも考えます。また、情報の扱い方をまとめたページを設けている、こちらにも実生活に活用していくことができるように工夫がされています。

次に、学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫についてご説明いたします。単元の多くが、児童に必要感や興味をもたせ、生活に結びつけやすいものとなっており主体的・対話的で深い学びだけでなく、教科横断的な学びにもつながるような工夫がされています。また、書くことの単元に出てくる例示文については、少し高度なものが多いのですが細かい説明付きで示されており、児童が学習で活用しやすく工夫されています。また、単元の始めに学習の流れが明記され、どのような学習をするのかと、児童が見通しをもつことができるように配慮されています。巻頭での見通し、巻末での振り返りがある

ことで今後の学習や生活にも生かそうとする意欲が高められると考えます。

最後に、その他についてご説明いたします。教育出版では、写真を比べたり写真から読み取る活動など、写真を効果的に学習に取り入れている教材が多くありました。そのことで児童は興味関心をもって取り組んでいけると考えます。また、全学年上下巻分冊となっており、児童の荷物の重さが減り、負担軽減になるだけでなく、年度の途中で真新しい教科書を手にすることで児童の意欲喚起につながることも考えます。工夫を求めたいことは、巻末にある「言葉の木」のページです。こちらで挙げられている言葉については、少し例示が少ないように考えました。そうすると児童も例示が少ない分、活用しにくいのかなと考えていますので工夫が必要になってくると考えます。

最後に、光村図書についてご説明いたします。

はじめに、知識及び技能が習得できるようにするための工夫について、ご説明いたします。光村図書では、情報の小単元の設定が、前後の学習内容と関連づけた単元配列となっており、情報同士の関係や情報の整理の仕方について児童が実際に学んだことを活用しながら、技能を習得していくことができるような工夫がされております。

次に学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫についてご説明いたします。学習の流れが、問いを持たせることから始まっており、児童が自分の問いから主体的に学べるような工夫がされています。最後に、自分の学びを振り返ることで次の学習へ行かせるような工夫がされております。また、書くことの単元に出てくる例示文が、難易度の低いものが多く、多くの児童にとって取り掛かりやすくなっている配慮が見られます。また、単元の始めのページに学習の流れが明記され、どのような学習をするのか、児童が見通しをもって取り組むことができるような配慮もされております。

最後にその他についてご説明いたします。巻末の言葉の宝箱は、学年の学習に合った言葉が多く例示されており、児童の選択肢が広がり様々な言葉で伝えることができるように配慮されております。その他にも季節の言葉のページなどもあり、多くの季節の言葉の例示があって、そこも良いところだと考えております。また、巻頭の学習の進め方に話すこと、聞くこと、書くことの活動があり多彩な言語活動が扱われており、内容も充実しております。児童が興味をもって取り組んでいくことができると考えます。工夫を求めたいのは、観察したことを書く学習についてです。主に低学年になりますが、国語の教科書では縦書きで示されており、生活科で実際に観察したものを書くときには、生活科では横書きということが多いため、教科横断的に活用しにくいと考えます。

国語の説明は、以上でございます。

(議長)

ありがとうございました。ただいまの専門員長からの説明につきましてご質問いかがでしょうか。また、今の説明も含めてご意見等ございましたら、いかがでしょうか。

(委員)

ありがとうございました。教科横断的に学べるということでしたが、具体的にどういった内容があるか教えてください。

(専門員長)

国語科で学習したことを国語科だけで終わらせることではなく、他の教科でも使えるように、例えば総合的な学習の時間で自分のまとめたものを書いていくとき、国語科で学習したことを活かしながらまとめていくなどの活動が考えられます。他の教科でももちろん、活用していくことが考えられます。

(議長)

よろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(議長)

他にはいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、以上で、国語の質疑を終了させていただきます。専門員長は、ありがとうございました。ご退出ください。

(議長)

続いて、書写の専門員長を入室させてください。

(議長)

それでは、書写の説明をお願いいたします。

(専門員長)

皆さん、こんにちは。

私は国語科書写の専門員長を務めます、三芳町立三芳中学校校長の渋谷でございます。

これより調査研究の結果を説明いたします。

書写では3者について調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、文字を美しく書くための工夫、文字を書く意識を高めるための工夫、その他の3点を設定し、その結果につきましては、お手元の資料の通りでございます。

それでは東京書籍について、調査研究結果を観点に沿ってご報告を申し上げます。

はじめに、文字を美しく書くための工夫についてご説明いたします。教科書の中に書き込める欄が多いということが挙げられます。3年生以上では、毛筆指導が始まりますが毛筆で学んだ文字を硬筆で書く欄が教科書に設けられており、毛筆と硬筆を関連づけて学べるようになっていきます。また、学習する上で大切なことが「書写のカギ」という言葉で示され、巻末には1年間で学んだ書写のカギが一覧になっています。毛筆指導においては穂先の動きを示すのに、穂先の通り道とともに穂先の向きを示すイラストがついていて、書きやすくなっています。5・6年生の教科書には、ひらがな50音表にひらがなの成り立

ちがわかる元の漢字と一緒に載せてあり、字形を意識して書けるようにしています。

次に、文字を書く意識を高める工夫についてご説明いたします。3年生以上では、表紙裏のページに「書写の学び」が載せてあり、書写の学習の中でどんな学びがあるのかが一覧になっていて、書写学習に対する興味関心を高める工夫がされています。2年生以上もはじめのページに「書写の学び方」が載っていて、同じパターンで学習を進めていくことができるようになっていて、見通しをもって学習に臨めるように工夫されています。学習の振り返りでは、「考えた・書けた・わかった」と3つの視点が示されており、本時の学びの定着度を明確にできるようになっています。どの学年でも教科書の終わりの方の「学びを生かそう」では、感謝の気持ちを書く内容の取り扱いとなっており、学年学習の最後に同じ内容、感謝等で1年の学習を締めくくれるようになっていきます。

最後にその他に気づいたことについて報告いたします。振り返りの視点、「考えた・書けた・わかった」は示されていますが、めあてとのつながりが明確ではないと感じました。また、これは3者共通ですけれども、ローマ字表が載せてあるのですけれども、そのローマ字表がローマ字表記のみで、ひらがなの読みが載っていませんでしたので、ぜひ小さな文字でも構いませんのでひらがなの読みを載せるようにしていただきたいなと感じました。

次に教育出版についてご報告申し上げます。

はじめに、文字を美しく書くための工夫についてご説明いたします。5・6年生の硬筆で、ひらがなと漢字の両方が入る言葉では、ひらがなを丸、漢字を四角で色分けして示してあって、文字の枠をイメージしやすくする工夫がされています。毛筆では、小筆を使った名前の書き方や位置、大きさ等バランスよく配置された例が示されており、実際に半紙に書くときにイメージできるように工夫されています。また、毛筆学習が始まる3年生では、ある程度毛筆に慣れた後でそれが示され、4年生以上では、毛筆学習の初めの段階で示されているところが、各学年の学習に対応していると思われます。筆使いについて気をつけるポイントが、穂先の通り道が色分けされて示しており、しかもそれが見開きページの中にあることによって文字を美しく書くことに役立っているのではないかと思います。毛筆学習後に硬筆で復習ができるように示されている点は、書写の学習だけでなく、その他の教科での学習にも関連づけられるようになっていきます。

次に、文字を書く意識を高める工夫についてご説明いたします。「目次」と「何年生で学習すること」というのがセットになっていて、学習する内容が大まかに示されており、目次を確認しながら年間を通してどのような学びをするのかという見通しがもて、書写学習に対する意識が高められるよう工夫されています。表紙裏の大きな写真と文字はとてもインパクトがあり、書写学習を進める意欲の向上に役立っていると感じます。各学年にある「知りたい文字の世界」には、文字について関心を高められる内容になっています。また、元になる形、漢字を学習することで文字の意味についても考えられるように工夫されています。教育出版の一番の特徴は、各単元のめあてが青色で示され、探さずとも目に飛び込んでくるほど見やすいところだと思います。また、振り返りも、めあてが達成できたか、どの程度達成できたか、「◎・○・△」で記入できるようになっている点です。各自、学習の深まりを実感しながら学習を進められ

るように工夫されていると感じました。

最後にその他気づいたことについて報告いたします。硬筆の書きこみができる部分が少ないように感じました。また、ローマ字表が3年生だけに載っていきまして、そのひらがなの読みが欲しいところは他2者と同様でございます。

次に光村図書出版についてお報告を申し上げます。

はじめに、文字を美しく書くための工夫についてご説明いたします。1年生の「しよしゃ すたーとぶっく」は硬筆学習の、3年生の「毛筆 スタートブック」は毛筆学習の導入として丁寧で児童にとって理解しやすい内容になっています。3年生では「ななめほさきちゃん」というキャラクターが児童に強い印象を与えるとともに、穂先の角度の指導に役立つ工夫がされています。4年生では、学習するときのポイントが「たいせつ」に書かれており、その内容を読み取れば書き込める穴埋め式で書かせるところが同じページの目立つところにあり、大切なことを書かせることによって定着させるよう工夫されています。4年生にある「部分の組み立て方」では、漢字が部首になったときに大きく形が変わることを色分けして重ねることによって、字形を整えやすくする工夫がされています。

次に、文字を書く意識を高める工夫についてご説明いたします。3年生以上では「ねらい」の下に振り返りの欄があるため、ねらいを意識した振り返りができるよう工夫されています。4年生では「SDGsブック」、6年生では「書写ブック」が教科書の中ほどに折り込まれており、既習事項を日常生活の身近なところとつなげて活かす方法が紹介されています。古来より行われている正月行事の「書きぞめ」を紹介するページが全学年にあり、動画や写真を導入して書きぞめに対する関心を深める工夫がされています。3年生以上では、学習の進み方をページの右下、ねらいの左隣に載せてあり、学習の流れを意識して学習したり、見通しをもって学習したりできるよう工夫されています。

最後にその他気づいたことについてご報告いたします。振り返りがチェックのみなので、自分の学習がどれだけ深まったか明確にできないのではないかと感じました。また、ローマ字表にひらがなの読みが欲しいところは、他2者と同様でございます。

説明は以上でございます。

(議長)

ありがとうございました。

ただ今の専門員長の説明につきまして、ご質問・ご意見はございますか。

どうぞ。

(委員)

毛筆の筆使いなどは、特に動画は効果的だと思うんですが、各者のことをお答えいただけますか。

(専門員長)

動画に関しましては3者ともQRコードが示されていて、お手本の文字を書く動画が載せてあります。ただ、毛筆の指導の場合は机の上が習字道具でいっぱいになってしまっていて、今各自1台持っているタブレットを使って各自が見るというよりも、前に大画面を示しておいて、教員のタブレットでそれを子どもた

ちに見せるというのが良い使い方だと思います。各者みな、載せてあります。

(議長)

よろしいでしょうか。他にはいかがでしょう。

よろしいですか。

それでは、以上で質疑を終了いたします。専門員長は、ありがとうございました。ご退出ください。

(議長)

それでは続いて、社会及び地図の専門員長を入室させてください。

(議長)

それでは、社会及び地図について説明をお願いします。

(専門員長)

よろしく願いいたします。私は社会科専門員長を務めます、ふじみ野市立東原小学校教頭の鈴木達也でございます。

これより社会科調査研究の結果を説明いたします。社会科では3者について、地図帳では2者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、観点1「社会科の学習の進め方が分かりやすく、学習の問題を追求・解決することができる構成になっているか」 観点2「資料を読み取り、活用する力を身につけさせる上で、資料の種類や数、資料提示の表現やその説明は適切か」 観点3「社会科の知識や技能の習得が進む工夫はどのようになされているか」の3つを設定しました。

地図帳では、「地図の読み方や扱い方が分かりやすく工夫されているか」の1つの観点を設定し、その結果につきましては、お手元の報告書の通りでございます。

それでは、東京書籍について調査研究結果を観点到沿ってご報告申しあげます。

はじめに、観点1についてご説明いたします。学習の進め方は、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」の学習過程で示されています。見開きのページごとに学習過程と学習のめあてが示されており、この時間は何を学習しなければいけないのかが一目で分かるように工夫されています。一方で、学習過程がはっきりしているため、児童の思考に沿った柔軟な関連計画の作成には教師の授業力が求められます。

次に、観点2についてご説明いたします。写真や図などの資料が見やすく配置されています。写真や絵についての補足説明も多く、本文の内容を理解しやすくなっています。資料の要所にQRコードがあり、どのような内容が準備されているかが明記されているのでとても使いやすくなっています。ただ、関係者の話の資料が少ないので、社会的事象に関わる人に焦点を当てて追求していく場合には工夫が必要となってまいります。

最後に、観点3についてご説明いたします。「まなび方コーナー」では、社会の学習のために必要な、調査方法や資料の読み取り方、学習した内容のまとめ方や表現の仕方について紹介されています。また、「こと

ば」「用語かいせつ」でその時間ごとのキーワードや難しい言葉をわかりやすく説明し、知識や技能が習得できるようになっています。

次に、教育出版について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに、観点1についてご説明いたします。学習の進め方は、「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」の学習過程で示されています。見開きのページごとに、学習過程と「この時間の問い」「次につなげよう」が示されており、この時間と、次の時間には何を追究しなければいけないのかが一目でわかるように工夫されています。ただ、次の時間の活動内容が示されているため、本時の児童の思考が「次につなげよう」に向かって縛られてしまう可能性があります。

次に、観点2についてご説明いたします。写真や絵が大きく、本文に合わせて効果的に配置されています。6年生の歴史の資料では白黒の写真や絵を着色してカラーになっている資料があり、見やすくなっています。また、補足としてQRコードを用意し、動画や様々なホームページにアクセスして必要な資料を集められるようにしています。

最後に、観点3についてご説明いたします。「学びのてびき」では、社会の学習のために必要な、調査方法や資料の読み取り方、学習した内容のまとめ方や表現の仕方について紹介されています。また、「キーワード」でその時間ごとのキーワードや難しい言葉をわかりやすく説明し、知識や技能が習得できるようになっています。全体的に注記、語句解説の数が少ないので教師による補足等が必要です。

次に、日本文教出版について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに、観点1についてご説明いたします。学習の進め方は、「問題を発見する力を身につけよう」「問題を追究・かいけつする力を身につけよう」「問題をほりさげ、よりよい未来をつくる力を身につけよう」で示されています。また、学習の問題を解決していく中で、より深く考えたい問題を「さらに考えたい問題」として思考の連続性を大切にしています。ただ、児童のさらに考えたいという問題意識を高めたり、児童の思考の連続性を引き出したりするためには教師の授業力が求められます。

次に、観点2についてご説明いたします。写真や絵、グラフ、統計などの資料が豊富に用意されているので、客観的な事実に基づいて、社会的事象について調べる学習がしやすくなっています。QRコードがたくさん用意されており、動画や様々なホームページにアクセスして必要な資料を集めることができます。

最後に、観点3についてご説明いたします。「学び方・調べ方コーナー」では、社会の学習のために必要な、調査方法や資料の読み取り方、学習した内容のまとめ方や表現の仕方について紹介されています。また、「キーワード」「むずかしいことば」でその時間ごとのキーワードや語句の意味をわかりやすく説明し、知識や技能が習得できるようになっています。資料が多く準備されており、知識や技能習得の助けとなっています。一方で限られた授業時間で学習するには、必要な資料を児童や教師が適切に取捨選択することが必要となります。

社会科の説明は以上でございます。

次に、地図帳についての調査研究結果をご報告申し上げます。

まず、東京書籍について、観点に基づきご説明いたします。

「地図のきまり」「地図帳の使い方」では、方位や地図記号、索引や縮尺等について丁寧に説明されており、基本的な地図の読み方が身につくように工夫されています。また、ページ数が102ページと少なく、学習内容がコンパクトにまとめられています。一方で、1ページに多くの内容が詰め込まれているので、地図帳を初めて学習する児童にとっては、文字や情報の多さに抵抗を感じてしまう児童もいる可能性があります。「ポップ、ステップ、マップでジャンプ」のコーナーが設けられており、児童の興味・関心を高められるような質問や作業などが準備されています。

その他としては、日本の各地方の地図の最初に、500万分の1の日本列島の地図が見開き1ページに大きく掲載されていて、日本の地域の特色の全体像がつかみやすくなっています。

次に、帝国書院について、観点に基づきご説明いたします。

「地図のやくそく」「地図帳の使い方」では、方位や地図記号、索引や縮尺等について分かりやすく説明されており、基本的な地図の読み方が身につくように工夫されています。また、ページ数が132ページあり、地図の学習をするために十分な情報が掲載されています。一方で、情報量が多いため学習内容を精選する教師の授業力が必要となります。「地図マスターへの道」のコーナーが設けられ、児童が地図に入り込みやすい工夫がされており、主体的な学びへ導く手立てとなっています。

その他としては、「広く見わたす地図」と「都道府県を見る地図」の2種類の地図を地方ごとに掲載することで、都道府県の位置関係と詳細な県の情報を結びつけやすいように工夫がされています。

地図帳の説明は以上となります。

(議長)

ありがとうございました。ただいまの専門委員長の説明につきまして、ご質問・ご意見、ございますでしょうか。

(委員) (意見等なし)

(議長)

よろしいでしょうか。

それでは、以上で質疑を終了いたします。専門員長は、ありがとうございました。御退出ください。

(議長)

それでは、算数の専門委員長を入室させてください。

(議長)

算数についての説明をお願いいたします。

(専門員長)

はい。皆様、こんにちは。

私は、算数科専門員長を務めます、富士見市立諏訪小学校、校長の石井勝博と申します。

これより、算数科調査研究の結果を説明いたします。算数科では6者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしましては、「知識及び技能が習得されるようにするための工夫」「思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫」「学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫」「数学的活動を充実させるための工夫」の4つを設定し、その結果につきまして、お手元の報告書のとおりです。

それでは、東京書籍株式会社について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに「知識及び技能が習得されるようにするための工夫」について主なものをご説明いたします。紙面の練習問題が終わったあと、QRコードによる練習問題や補充のページを用意されており、個別最適化された学びに活用することができる構成になっています。

次に「思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫」について主なものをご説明いたします。単元の後半に、問題解決の過程を振り返り、新たな課題を見出し、解決の計画を立て実行する力を育むページ「それなら次は？」が新設されています。

次に「学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫」について主なものをご説明いたします。巻頭の「私と算数」では、世界レベルで活躍する人を取り上げ、算数との関わりを説き、算数の身近さや有用性が実感できるよう工夫されています。

最後に「数学的活動を充実させるための工夫」について主なものをご説明いたします。「それなら」の吹き出しで次の学習に向けて発展的に考える思考を促し、連続した学びとなるよう工夫されています。

続きまして、大日本図書株式会社について調査研究結果を観点に沿って、上から順にご報告申し上げます。

はじめに、観点1につきましては、大切なことは、確実に身につけさせることができるよう巻末補充問題が全単元にわたって設定され、習熟度別学習に対応しやすい構成になっています。

次に、観点2につきましては、本時のまとめでは、考え方に焦点をあてた「発見！考え方」が掲載され、文章で分かりやすく表記されています。

次に、観点3につきましては、「ふくろう先生のなるほど算数教室」では、算数が社会で生かされていることを実感できるよう工夫されています。

最後に、観点4につきましては、解決への手がかりとして、数学的な見方・考え方が「ひらめきアイテム」として示され、数学的な見方・考え方を活用しながら数学的活動に取り組むよう工夫されています。

続きまして、学校図書株式会社について調査研究結果を観点に沿って、上から順にご報告申し上げます。

はじめに、観点1につきましては、児童がつまずきやすい内容について「算数パトロール隊」のページを設け、基礎基本の定着を図る工夫されています。

次に、観点2につきましては、まとめの前に問題を設け、新たに学んだ

解決の方法を確実に身につけさせることができるよう工夫されています。

次に、観点3につきましては、単元の導入の場面において、日常に潜む疑問を取り上げ、主体的に取り組むことができるよう工夫されています。

最後に、観点4につきましては、まとめのあとに、次の学習につなげる「？」を用意し、新たな数学的活動が展開できるように工夫されています。

続きまして、教育出版株式会社について調査研究結果を観点に沿って、上から順にご報告申し上げます。

はじめに、観点1につきましては、巻末の「学びのマップ」では、全学年からのつながりが分かるよう示され、大切な考え方を振り返ることができるよう工夫されています。

次に、観点2につきましては、単元末の習熟の際に必ず思考を問う問題を4コマ漫画と合わせて提示し、単元で学んだ見方・考え方を振り返ることができるよう工夫しています。

次に、観点3につきましては、単元の前に「どんな学習が始まるかな？」というコーナーを1，2ページ設け、導入への準備を身近な題材を通して行うなど工夫されています。

最後に、観点4につきましては、「なるほど！」のあとに、次の学習につなげる「だったら！？」の吹き出しを示すことで、発展的に学ぶことができるよう工夫されています。

続きまして、株式会社新興出版社啓林館について調査研究結果を観点に沿って、上から順にご報告申し上げます。

はじめに、観点1につきましては、巻末に「じゅんぴ」「もっと練習」を設け、個に応じた学びに対応できるよう工夫されています。

次に、観点2につきましては、学んだことをもとに活用・探求に取り組むことができるよう「学びをいかそう」のコーナーを設けています。

次に、観点3につきましては、児童が興味関心をもって学習に向かうことができるよう、身の回りのことや既習事項から学習が展開されています。

最後に、観点4につきましては、児童の問いや気づきを「めばえ」として提示することで、自ら課題を発見し、新たな数学的活動ができるよう工夫されています。

続きまして、日本文教出版株式会社について調査研究結果を観点に沿って、上から順にご報告申し上げます。

はじめに、観点1につきましては、単元の終わりに「わかっているかな」を設け、つまづきやすい問題への対応や見方・考え方の定着に向け、工夫されています。

次に、観点2につきましては、まとめの前に「ためしてみよう」を設け、話し合った考え方で解かせるなど、考え方の定着を図る工夫がされています。

次に、観点3につきましては、「自分でみんなで」を設け、「学び方の4ステップ」を示した問題解決的な学習により、主体的・対話的で深い学びにつながるよう工夫されています。

最後に、観点4につきましては、既習の学習内容との違いや疑問を吹き出しで示すことで、数学的活動のつながりを意識して問題解決できるよう

工夫されています。

説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

(議長)

ありがとうございました。ただいまの算数の専門員長の説明につきまして、ご質問・ご意見等うかがいます。

(委員)

算数において繰り返しの練習というのは必要だと思うんですけども、今ここで子どもたちにタブレットを1台ずつ渡っている中で、練習させるということで、QRコードによるというのは東京書籍だけ書いてあるわけなんですけど、他のところもかなり充実はしているんでしょうか。

(専門員長)

QRコードにつきましては数に違いはございますけれども、どの教科書もかなり多くの数のQRコードに設けております。

(議長)

よろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(議長)

他にはいかがでしょう。よろしいでしょうか。

それでは以上で質疑を終了といたします。算数の専門員長は、ありがとうございました。

(議長)

続いて、理科の専門員長を入室させてください。

(議長)

それでは、理科について説明をお願いいたします。

(専門員長)

皆さんこんにちは、私は理科専門員長を務めます、富士見市立関沢小学校、教頭の宮本健でございます。よろしくお願いいたします。

これより、理科調査研究の結果を説明いたします。理科では、5者について調査研究を行いました。調査研究の観点は次の3つです。1つめは「観察・実験の資料等が子供たちにとってわかりやすいかについて」、2つめは「理科の思考力を育てる単元構成になっているかについて」、3つめが「子供たちにとって興味の湧く構成になっているかについて」です。結果につきましては、お手元の報告書にあるとおりでございます。また、これ以外の特徴的な物については「その他」の項目に記載してあります。

それでは、東京書籍について、ご報告申し上げます。

まず観点1についてです。良い点として、観察・実験方法が図や写真が入っていて、詳しく掲載されていること。教科書に載せられない資料をネットで調べられるように補足資料があること。特に6年の食物連鎖を学ぶ場面で、わかりやすい写真の掲載をしていること、があげられます。

次に観点2についてです。良い点として、3、4年生は「比べる」ことができるように比較しやすい資料がならべて掲載されていること。問題、実験、まとめの表題が大きく、問題解決の流れがわかりやすいこと。QRコードから理科ノートを表示でき、ノートの書き方について指導がしやすいこと、があげられます。

最後に観点3についてです。良い点として、導入時に、「レッツトライ」として試してみることを示し、課題を見つけやすくしていること。子供たちの興味関心を広げるような発展資料が多く掲載されていること、があげられます。一方問題点として、「ふりかえろう」の挿絵がアニメチックで実物と大きく違う部分があります。

また、その他の特徴として、A4判なので、1ページが大きく感じ、文字が大きく見やすいこと。実験において安全上注意しなければいけないことが、赤文字で「危険」とはっきり指摘してあること。5者のうち最軽量であることがあげられます。

次に、大日本図書について、ご報告申し上げます。

まず観点1についてです。良い点として、観察している様子の絵や写真にタブレットが多く出ていること。5年の「メダカのたんじょう」では、卵の変化を観察する場面で、卵を別の方向から見た写真も掲載してあり、状態をイメージしやすくなっていること、があげられます。一方問題点として、モンシロチョウのたまごが、葉の裏についていると下向きになるところを上向きに掲載されている点があげられます。

次に観点2についてです。良い点として、観察の単元の順番は、時系列に沿って並んでいて、植物や昆虫の単元が分かれて何度か出てくること。問題解決の流れに沿ってページが切り替わっていることが多く、子供の思考の流れを妨げないこと、6年の「植物の体のつくり」では、間に動物についての学習が入るので、動物と植物を関連付けて学習ができることがあげられます。

最後に観点3についてです。良い点として、単元の中に中学校で学ぶことが書いてあり、学習のつながりが理解しやすいこと。予想や計画、考えようでは例がはっきりと示されているので、教科書を読めば、全てわかるように構成されていること、導入場面の写真に吹き出しが入っていて、子供たちの発想の助けになることがあげられます。

また、その他の特徴として、A4判なのでページの中の写真が大きいこと。5者のうちページ数が一番多いこと。巻末に既習事項や他教科との関連を掲載してあることがあげられます。

次に、学校図書についてです。

まず観点1について、良い点として、写真、絵・図のバランスが良く、観察や実験の内容がわかりやすいこと。写真の大きさにメリハリをつけていて、重要な写真は大きくわかりやすいこと。数多くのQRコードがあり、教科書に載せられない補足資料や映像を見て、自分の考えを深めるのに役立つことができること、があげられます。

次に観点2です。良い点として、教科書のはじめの方に、各学年で特に身につけたい力が明記されていること。単元の初めに3つの目標、終わりに目標に合わせてできるようになった内容、学習の場面ごとに3段階の振り返りができるようになっていること、問題から結果まで見開きで載っている単元があり、見通しをもって学習ができること、があげられます。

最後に観点3です。良い点として、子どもの興味を引き出すために「理科モンスター」を設定していること。導入の場面が、身近なものなど、子供の興味がわくような写真と言葉になっていること、があげられます。一方問題点として、6年「水溶液の性質」で調べる液体の中に、それまで実験で複数回出ている、石灰水を入れていないことがあげられます。

また、その他の特徴として、QRコードの動画が、説明なしですぐ立ち上がり見やすいこと。紙の表面が滑らかなので写真が鮮やかであること。巻末のまとめの中に、調べ方や写真の撮り方を載せていることがあげられます。

次に、教育出版についてです。

まず観点1についてです。良い点として、観察・実験方法の写真、絵・図のバランスが良く詳しく掲載されているので、説明がわかりやすいこと。教科書の補足資料がQRコードによりネットで調べやすいようになっていて、その資料が使いやすいことがあげられます。一方問題点として、重要度によって写真の大きさに違いを付けているようですが、ものによってはもう少し大きいと見やすいかなというものもあります。

次に観点2です。良い点として、問題解決の流れに沿ってページが切り替わっていることが多く、子どもの思考の流れを妨げないこと。6年の「人体のつくり」の単元の実物大の内臓の図は、体の中の構造がイメージしやすいこと。単元のまとめのページに学習前と学習後の考え方を比較して、子供の考え方の変わり方を表していること、があげられます。

最後に観点3です。良い点として、導入場面の写真は、この単元でどんなことを学習するのだろうかと期待させるようなものになっていること。子供たちの興味・関心を広げるような発展資料が多く掲載されていること。単元の最初に、昨年度や来年度以降とのつながりを意識することができるように明示されていること、があげられます。

また、その他の特徴として、教科書の裏表紙に安全の手引きが大きく載っていること。SDGs関連のリンクが、学習途中にあり、調べ学習へつながるようになっていること。実験において安全上注意しなければいけないことが、赤文字で「危険」とはっきり指摘してあることがあげられます。

最後に、啓林館です。

まず観点1について、良い点として、「虫眼鏡の使い方」などの資料が教科書の後ろにあるのではなく、単元の途中で差し込まれており、授業で確認しやすくなっていること。新しく学習した用語の確認チェック欄、理科的な語彙にマーカーが引いてあるなど、正しい語句を覚えやすくしてあること、があげられます。一方問題点として、写真が小さく少な目で、挿絵がイラスト調で不自然に感じる点があります。

次に観点2です。良い点として、学習する中で大切な考え方がわかるように、アンダーラインで示されていること。発展に中学で学ぶことや他教科とのつながり、場面ごとに既習事項を習った学年とともにのせ、学習の

つながりを意識していること。数多くのQRコードによって映像等を見ることができ、自分の考えを深めるのに役立てることができること、があげられます。

最後に観点3です。良い点として、3年の巻末に探検シートがあり、子供が観察の時に持ち出しやすいようになっていること。興味・関心が高まるように自分たちの暮らしとリンクしている発展資料が用意されていること。初めに「考えよう」と考える場面を示し、活用の中に「もう一度考えよう」と注意をひくような作りになっていることがあげられます。

また、その他の特徴として、5者のうち最軽量であること。パソコン以外のICTを使う場面も表示していること。巻末に資料室として、ノートの手書き方、伝え方などを載せ、さらに「理科につながる算数」や「理科の見方」を掲載していること、があげられます。

説明は以上でございます。

(議長)

ありがとうございました。ただいまの説明についてご質問、ご意見、委員の皆様からいかがでしょうか。

(委員)

理科の観察・実験の後の学習の流れについてですけれども、それぞれの教科書会社のところでの扱いで、特に顕著であったり、変わった流れだったり、どういう扱いをしているか、もし各者で違いがあるのでしたら、教えていただければと思います。

(専門員長)

観察のあとにということですか。

(委員)

観察の後の学習の流れ、要するに方法を学ぶような教科書になっているのか。

(専門員長)

各者によって観察の扱いとかはちょっと違うので、比較してどこの会社がどの形になっているかというのは、申し訳なく手元の資料ではわからないのですが、それについては後日でよろしいでしょうか。

(議長)

よろしいですか。

(委員)

はい。

(議長)

他にはいかがでしょう。

(委員)

理科においては、観察とか実験というのは非常に重要なところがあるのですけれども、実験内容について、最近事故があったりしているわけですが、そのへん、各教科書会社で実験の方法というのは違っているのでしょうか。

それともある程度一定のものがあって、それ以外のやり方については、QRコード等で説明がなされているのでしょうか。

(専門員長)

各者によって実験の数とかでは多少の違いはあります。実験の方法とか道具とかの使い方についても各者によっては提示されている道具が違っている場合もあります。

先ほど出てきた危険と表示してあるところの2者については申し上げたのですが、他の会社についても「注意」、ここはこういう形でやった方がいいとか、ここは危険ですという、注意については、各者とも載せてあって、注意をしながら実験を取り組めるようになっています。

(議長)

委員さんよろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(議長)

他にはいかがでしょうか。

私、議長からでございますが、これは専門員長にというより委員の皆様にお伝えをさせていただきたいと思えます。

今専門員長の方からいくつかの会社の中で、問題点という表現でいくつか指摘がありました。しかし、その問題点、一応この全ての教科書は検定済みでございますので、それが問題と言えるかどうかというのは、ご判断をいただきたいというふうに思えますので、今後この選定にあたって、この問題点ということについては改めてお考えをいただきながら選定にあたっていただければというふうに思えます。私の方からは、以上でございます。

他、ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは以上で質疑を終了いたします。専門員長は、ありがとうございました。

(議長)

続いて、生活の専門員長を入室させてください。

(議長)

それでは、生活について説明をお願いします。

(専門員長)

皆様こんにちは。私は、生活科専門員長を務めます、ふじみ野市立大井小学校、校長の抜井でございます。

これより、生活科調査研究の結果を説明いたします。調査研究の観点といたしまして、「スタートカリキュラムの内容について」、「気付きの質の高まりについて」、「自立し、生活を豊かにしていくための内容について」、「その他」の4つを設定し、その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。

それでは、東京書籍について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに、「スタートカリキュラム」についてご説明いたします。幼児期から小学校へつなぐ姿を保護者と共有し、円滑な接続ができるようにしています。スタートのページでは、児童が学校に対して興味・関心をもつような教員の指導に参考になる内容が掲載されています。

次に、「気づき」について、ご説明をいたします。1人1台端末を活用した発表、オンラインでのインタビュー等、ICT機器を活用した学習が多く掲載されています。しかし、説明や吹き出しの言葉が具体的なため、教員にとっては指導しやすいですが、児童自身の気づきがあまり生まれにくい可能性がございます。

次に、「自立」についてご説明いたします。巻末のページに児童に学習や生活で頑張らせたことや身につけさせたいことがあります。また、絵や写真で児童同士が関わって学習をする様子も多くあります。

最後に、「その他」についてご説明いたします。QRコードが多く、写真や動画が充実していると感じました。

次に、大日本図書についてご説明いたします。

はじめに、「スタートカリキュラム」についてご説明いたします。1日の学校生活の流れの中で、児童同士が関わり合いながら楽しい学校生活を送れるように写真で分かりやすく示してあります。

次に、「気づき」について、ご説明をいたします。活動の後に「気持ちマーク」を書き込むことで、活動を振り返り、自分の気持ちに気づくことができます。また、児童の気づきが生まれやすいように、絵や写真が大きく、分かりやすく工夫されています。

次に、「自立」についてご説明いたします。全体的に文字数が多く、絵や写真だけでなく、児童が理解するための情報量が多いと感じます。単元の終わりに児童が振り返ることができるカードや発表する際の支援になるような例が、多く掲載されています。

最後に、「その他」についてご説明いたします。QRコードは、絵での説明が多く動画がもう少しあると分かりやすいかなと感じました。

次に、学校図書についてご説明いたします。

はじめに、「スタートカリキュラム」についてご説明いたします。小学校での過ごし方や気を付けることを絵や写真で示しています。特に、登下校の安全に関する約束があり、児童と保護者が家庭でも確認することができます。

次に、「気づき」について、ご説明いたします。児童の考える力、気付く力を育成するために、絵や写真を多く掲載したり、児童の言葉の吹き出しを少なくしたりするというようにしております。しかし、児童によって

は、気付くことができずに教員の支援が必要になるともいえるかなというふうに考えます。また、先生の言葉の掲載が少ないため、経験の浅い教員にとっては難しいと考えます。

次に、「自立」についてご説明いたします。児童が自ら考えて行動できるように、また、友達と関わりながら成長できるよう工夫されています。対話的な活動を通して、学びが深められるように吹き出しの言葉も、児童の視点に立った内容で、相手にどのような言葉をかけたらいかがが参考になります。

最後に、「その他」です。QRコードの内容は写真が中心に多くありました。

次に、教育出版についてご説明いたします。

はじめに、「スタートカリキュラム」についてです。入学前の姿を見ながら、小学校生活をイメージできるように絵と写真があります。写真の配置がきれいにそろっているので、「左上の写真は・・・」等と教員が指示ができ、児童が分かりやすいです。

次に、「気づき」についてです。単元の冒頭には、自分の経験をもとにして学びに向かうようなきっかけづくりのページがあります。単元の途中には、簡単なワークシートがあり、児童が記述できるようになっておりますが、児童の活動が多くなってしまうと考えられます。

次に、「自立」についてです。自分の成長に関わる単元では、自分自身で成長に気付くとともに、他者からの言葉でも気付くようになっていきます。板書や活動例、活動の約束等があり、教員の授業づくりや指導の参考になると考えます。

最後に、「その他」についてです。QRコードが、動画、ワークシート、図鑑の3種類でそれぞれ学ぶことができます。

次に、光村図書出版について説明いたします。

はじめに、「スタートカリキュラム」についてです。最初のページは、3ページが見開きの絵になっていて児童にとってはわくわくしたスタートになると感じます。さらに、はじめの4、5ページは文字が少なく、写真と絵になっています。文字を少なくすることで、抵抗感が減ると感じられます。

次に、「気づき」についてです。児童の気づきにつながるようなつぶやきが吹き出しの言葉になっています。また、思考と表現を繰り返しながら学びを深めている学習の例が示されております。子供たちの気づきを高めたり、考えたりする力の育成に期待できます。一方、活動するための説明の内容が少ないので、自分自身で課題解決することが難しい児童にとっては、教員の指導・支援が必要になると考えます。

次に、「自立」についてです。「主体的・対話的で深い学び」の振り返りを意識した内容になっております。振り返る視点が示されておりますので、教員にとっても参考になります。しかし、全体的に児童が自ら試行錯誤しながら学んでいく構成になっておりますので、経験の浅い教員にとっては指導が難しいと感じます。

最後に、「その他」についてです。QRコードは、約束や使い方を動画で見ることができます。

次に、新興出版社啓林館についてご説明いたします。

はじめに、「スタートカリキュラム」についてです。入学前を見たり、絵や写真で小学校生活に興味・関心をもったり、家庭と連携ができたりするような工夫がされています。教員にとっても指導がしやすいと感じました。

次に、「気づき」についてです。単元の冒頭に、学習活動に入る前に気付きを持たせたり、学習意欲を高めたりすることができるページがあります。しかし、写真によっては小さめのものがありますので、気付かせたりするためにはもう少し大きい写真の方がよいなとも思います。

次に、「自立」についてです。次の学習活動へつなげるためにスモールステップの課題が示されているので、児童の意欲を持続させることができるとともに、児童も教員も学習の流れがイメージしやすく見通しをもつことができます。また、吹き出しの言葉や板書例で、学習活動や指導の視点が分かりやすいです。

最後に、「その他」についてです。QRコードは動画や写真、音等大変充実しています。

説明は、以上でございます。

(議長)

ありがとうございました。

生活の専門員長からの説明につきまして、ご質問、ご意見はよろしいでしょうか。

(委員) (意見等なし)

(議長)

それでは以上で質疑を終了といたします。専門員長は、ありがとうございました。

(議長)

それでは、音楽の専門員長を入室させてください。

(議長)

それでは、音楽についてご説明をお願いいたします。

(専門員長)

皆さん、こんにちは。私は、音楽科専門員長を務めます、ふじみ野市立西原小学校、校長の村越澄子でございます。これより、音楽科調査研究の結果を説明いたします。

音楽科では、2者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、1「知識及び技能を習得できるようにするための工夫」、2「思考力・判断力・表現力を育成するための工夫」、3「学びに向かう力・人間性等の涵養を高めるための工夫」の3つを設定し、その結果につきましては、お手元の報告書のとおりでございます。

それでは、教育出版について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに、観点①「知識及び技能を習得できるようにするための工夫」について、調査研究結果について3点説明いたします。1点目は、系統的に題材が配列され、各学年の発達段階に配慮して、学習事項の確認ができるよう、学習のねらい、共通事項が示されています。2点目は、「まなびリンク」としてページに記載されているQRコードを読み込むと、リコーダーの運指や楽曲の簡単な音源を見たり聴いたりすることができる等、個別最適な学びに特化した内容になっております。3点目は、鑑賞では「音楽を形づくっている要素」をもとに、わが国の伝統芸能や民謡などについて多様な文化にふれるようになっており、情報量が豊富です。

次に、観点②「思考力・判断力・表現力を育成するための工夫」について、ご説明いたします。1点目は、「まなびナビ」のマークとして、児童の思いや意図を引き出すような発問例が記載されており、児童同士が話し合う機会を増やすことで、深い学びへとつながるように工夫されています。2点目は、「音のスケッチ」では、音楽の特徴について、発展的に考察でき、音楽的な見方・考え方を活用して自分の考えを深めるように工夫されています。3点目は、「学習マップ」として、題材、学習の進め方が示されており、何を学ぶかがわかりやすい配列となっています。

最後に、観点③「学びに向かう力・人間性等の涵養を高めるための工夫」について3点ご説明いたします。1点目は、写真やイラストが多く、特に実写が多いため、児童がその楽曲の様子や情景が容易に想像しやすいようになっています。また、折り込みを入れた写真は大変見やすく学習意欲を掻き立てやすいです。2点目は、「音楽のもと」がどの教材にも示され、その横には常にメモができるようになっているため、学びが深まるよう設定されています。3点目は、「まなびリンク」では、目次のQRコードから教材にリンクした動画、楽譜のアニメーションが見られます。豊富な情報量で充実しており、情報化への対応に配慮されています。

つづきまして、教育芸術社についてご説明いたします。

はじめに、観点①「知識及び技能を習得できるようにするための工夫」について3点説明いたします。1点目は、親しみやすいキャラクターのナビゲートが登場し、子供の気付きや疑問を台詞のように展開して記載されているため、馴染みやすく、対話的な学びを促す工夫がされています。2点目は、系統的に題材が配列されており、学習のねらい、共通事項である音楽を形づくっている要素が示されています。3点目、歌唱では、児童の声域の発達段階に応じて、音域や難易度に配慮されています。器楽では、スモールステップで段階を追いながら、確実に演奏技能が高まるように工夫されています。

次に、観点②「思考力・判断力・表現力を育成するための工夫」について3点説明いたします。1点目は、各題材のページに「考える」「見つける」「歌う」「演奏する」「つくる」のアイコンがあり、「どのように学ぶか」を示す助言が記載されていました。「思いや意図」を引き出した「気付く・理解する」ことができたりしやすくなるように工夫されています。2点目は、1年間の学びの見通しがもてる「学習マップ」、1年間の学びを振り返られる「振り返り」のページは、見通しをもった学びが実現できたり、音楽を形づくっている要素を確認できたりします。3点目、「ムーブの部屋」では、音源や楽器の鳴らし方などが見られるように

なっています。音楽づくりの資料も豊富です。

最後に、観点③「学びに向かう力・人間性等の涵養を高めるための工夫」について3点説明いたします。1点目は、身の回りの音（自然、生き物等）や音楽を、学校の学習する音楽の学びをつなげることで、生涯にわたって音楽に親しむような配慮がされています。2点目は、地域の文化や芸能に興味・関心をもち、親しみがもてる郷土のまつりや芸能の取り組み、それを受け継いでいる様子があり、次世代につながる児童の育成に配慮されています。3点目は、「生活や社会と音楽との関わり」「SDGsにつながる視点」「道徳教育や人権教育に対する配慮」等、音楽を通じて自身の生活に関わる事柄が、各学年の題材の間に記載されており、自分の人生や社会に生かすことができるよう工夫されています。

説明は以上でございます。

（議長）

ありがとうございました。それではただいまの音楽の専門員長からの説明につきましてご質問、ご意見等ございませんでしょうか。

（委員）

それぞれの教科書の「その他」のところで、最初の教育出版社の方では、英語の歌詞だとか外国の曲とかが多いのでしょうか。

それから教育芸術社の方では古くから歌い継がれている日本の歌という表記があるのですが、日本の昔の教材が多いのかどうかですね、特にそれぞれの教科書において、日本の音楽を扱っている割合と外国の音楽を扱っている割合の違いというか扱う量の違いが、もし分かりましたら、教えてください。

（専門員長）

お答えいたします。

古くから伝わっている日本の歌というのは、共通教材というふうに申しまして、それは教育出版でも教育芸術社でも同じように文科省で定められておりますので、それは数が同じでございます。外国語の内容につきましては、教科書の後ろの方にですね、特徴的に教育出版の方が多いところがあるかな、というふうに感じられました。以上でございます。

（議長）

よろしいでしょうか。

（委員）

はい。

（議長）

他にはいかがでしょうか。

（委員）

歌を歌う楽しさや楽器を演奏する楽しさとか、音楽を楽しむという観点から工夫をされているところはありますか。

(専門員長)

両者とも非常に音楽を楽しむように、ナビゲーターもそうですけれども、子供が親しみやすいような、歌いたいと思われるような工夫が、両者ともそのような工夫がされていると考えています。

(議長)

よろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(議長)

他にはいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、以上で質疑を終了いたします。専門員長は、ありがとうございました。御退出ください。

(議長)

それではここで15分間の休憩をとらせていただきます。開始は2時45分から、図画工作科教科用図書の報告を開始いたします。

【休憩】

(議長)

それでは時間となりましたので、会議を再開させていただきます。
図画工作の専門員長を入室させてください。

(議長)

それでは、図画工作についての説明をお願いいたします

(専門員長)

皆さん、こんにちは。私は図画工作科専門委員長を務めます、富士見市立勝瀬中学校、教頭の鳥山裕貴でございます。

これより、図画工作科調査研究の結果を説明いたします。図画工作科では2者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、1つ目は「児童に分かりやすく、イメージを膨らませることができる構成の工夫について」、2つ目に「学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のための工夫について」、3つ目に「生活や社会の中の形や色などと豊かに関わり、生活を楽しく豊かにする学習を深める工夫について」、そして「その他」の4つを設定し、その結果につきましてはお手元の報告書のとおりです。

それでは、開隆堂出版について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに、観点①児童に分かりやすく、イメージを膨らませることができる構成の工夫についてです。各題材のページが見開き2ページで完結し

ており一連の展開がわかりやすくレイアウトされています。また、使用されている色が優しく感じられるとともに、UDフォントを使用しているため見やすい紙面づくりとなっています。作品も大きく掲載されており、じっくりと細部まで見させたいもの、見開きにたくさん作品があり、イメージの幅を広げたいものなど題材によって変化があります。めあての掲載については、どの題材も3観点で示され、特に意識させたい観点到に色付けすることでよりめあてを明確にした授業展開ができるようになっていきます。また、題材名の下にリード文が書かれ、その題材の見通しを持つことができたり、児童の興味関心を高めたりできるようになっています。

次に、観点②学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のための工夫についてです。どの題材も学習活動の見通しが持てるようにイラストや写真で解説を掲載するとともに、吹き出しには思考を深める言葉かけがあり、課題解決能力育成につながる紙面構成になっています。また、現代的課題としてSDGsにつながる学びの題材にはマークがついていて、その取り組みや関係する作品が全学年で紹介されています。さらに、各題材の紙面右下に「あわせて学ぼう」という見出しがあり、教科名と具体的な活動を想起させる文章が示されています。これによって指導者は、他教科と関連付けた学習を意識することができます。

次に、観点③生活や社会の中の形や色などと豊かに関わり、生活を楽しく豊かにする学習を深める工夫についてです。各学年に「みんなのギャラリー」というページが設定され、日本各地の伝統文化を紹介したり、地域の美術館のワークショップの様子が掲載されていたりすることで図画工作科の活動が身近に感じられる工夫がされています。また、埼玉県に関わる事項、作品は5点掲載されていました。さらに、「つながるぞうけい」の中では図画工作科で身につけた力を学校生活に生かす例を掲載したり、街中や公園の作品にふれたりしています。ピクトグラム、ユニバーサルデザインの道具や設備など表現を身近な生活に生かした例が紹介されています。そして、環境への配慮として造形遊びで使った材料を次の時間に工作で使用するようにしたり、従来のプラスチックストローを紙ストローに変更したりするなどの工夫を行っています。

最後に「その他」といたしまして、観点以外の特徴を上げさせていただきます。巻末に「ひらめきショートチャレンジ」というページがあり、発想・構想のトレーニングができるページが設けられています。また、使用されている写真はマスクを外した児童の写真を使うことで表情がわかりやすくなっています。

次に、日本文教出版について調査研究結果を観点到に沿ってご報告申し上げます。

はじめに、観点①児童に分かりやすく、イメージを膨らませることができる構成の工夫についてです。作品の写真だけではなく作成途中などの活動の写真が多数掲載されており、指導の際に生かすことで「楽しそう」「やってみたい」という児童の意欲を引き出すきっかけになると考えます。基本は見開き2ページで構成されていますが、題材によっては使用するページ数を増減し、軽重をつけ、その中で授業の展開がわかりやすく掲載されています。また、どの題材もめあてが3観点で示されていますが、

3 観点のうちどの観点到重点を置くか計画的に取り組む必要があり、指導者の工夫が求められるところです。

次に、観点②学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のための工夫についてです。児童の作品以外の動画、画像、音声能聞けるQRコンテンツが1000以上あり、ICTを活用した授業の素材が充実しています。紙面上に吹き出しやアイコンでつくり方や表し方、仕組みを考えさせる解説があり、課題解決能力育成につながる授業展開が可能であると考えます。さらに、アートカードの活用や「友だちと作品を見て話そう」というページが設定されており、言語活動の充実が期待されます。

次に、観点③生活や社会の中の形や色などと豊かに関わり、生活を楽しく豊かにする学習を深める工夫についてです。低学年では「身の回りにあるものから」、中学年では「身近な美術作品から」、高学年で「日本の伝統的な作品や世界の美術作品から」多様な形や色に出会うページやQRコンテンツを発達段階に合わせて掲載しています。中でも埼玉県に関する事例・作品については6点掲載されています。また、例示として使用するストローや容器などのプラ材を減らし、紙材料だけでできるようにするなど環境への配慮をしています。さらに3・4年の上巻から設けられている「広がる図工」のページは、学びを生活や社会につなげられるようになっています。

最後に「その他」といたしまして、観点以外の特徴を上げさせていただきます。ミニアートカードが5・6年上に付録でついています。WEB上のアプリでアートカードを活用した学習ができるようになっています。また「ずこうのみかた」のページは見ているだけでも面白いものもありますが、作品の見方を考えたり、発想を膨らませたりすることができ、指導者の工夫により授業の導入や展開など多くの場面で活用できるものとなっています。

以上です。

(議長)

ありがとうございました。ただいまの図工の専門員長の説明につきまして、ご質問、ご意見はございませんか。

(委員) (意見等なし)

(議長)

よろしいでしょうか。

それでは以上で質疑を終了いたします。専門員長は、ありがとうございました。

(議長)

続いて、家庭科の専門員長を入室させてください。

(議長)

それでは家庭科について説明をお願いいたします。

(専門員長)

皆さん、こんにちは。私は家庭科専門委員長を務めますふじみ野市立鶴ヶ丘小学校校長の秋元江利子でございます。

これより家庭科調査研究の結果を説明いたします。家庭科では2者について調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして「知識及び技能を習得させるための工夫について」「思考力・判断力・表現力を育成するための工夫について」「学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫について」の3つを設定し、その結果につきましてはお手元の報告書のとおりです。

それでは、東京書籍について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに、観点1・知識及び技能を習得させるための工夫について、3点ご説明いたします。1点目です。全ての小題材ごとに「めあて」と「振り返ろう」が設けられています。この題材で「何を学ぶのか」という見通しをもたせ、最後に「何を学んだのか」という意識を高めることができるようになっていきます。2点目です。実習の最後の場面において「できたかな？」の欄が設けられています。例えば、第1題材「私の生活、大発見！」ではガスコンロの使い方を学びます。お湯を沸かしお茶を入れるという学習をした後に「できたかな？」の欄で「安全に湯を沸かすことができたか」「正しい手順でできたか」「用具食器を片付けることができたか」と学びのポイントが確認できるようになっています。3点目です。基礎的・基本的な内容が随所に「いつもたしかめよう」のコーナーにまとめてあります。特に巻末には「調理実習技能」と「製作実習技能」で実寸大の写真が掲載されており、振り返りや家庭学習においても活用することができます。ミシンの扱いのポイントも大きく掲載されていることは大きな特色です。

次に、観点2・思考力・判断力・表現力を育成するための工夫について、3点説明いたします。1点目です。「家庭科の窓」として4つの視点が示されています。題材の導入では4つの視点のうち、どの視点到重点が置かれているのか示されています。例えば、第3題材「ひと針に心をこめて」では「主に健康・快適・安全と生活文化の2つの視点で考えよう」と示されています。2点目です。全ての題材が3ステップになっているので問題解決的な学習が展開しやすくなっています。QRコンテンツもステップごとに活用できるよう「トライシート」「実習動画」「振り返りシート」という構成になっています。3点目です。製作や調理の例示が豊富です。写真による例示は、作りたい・使いたいという興味関心を高め、個々の力量に合わせた表現の助けにもなります。

最後に、観点3・学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫について、2点説明いたします。1点目です。巻頭に「成長の記録」が設けられています。題材ごとに記録を残すことで2学年を通したポートフォリオを仕上げるようになっていきます。学びの積み重ねを視覚化することで、自己肯定感を育むことにつながります。また、題材ごとに「次へのチャレンジ」という欄があり、学んだことを生かし今後への意欲化を図ることもできます。2点目です。「生活を変えるチャンス！」が長期休業の時期に合

わせ3箇所設けられています。例えば66、67ページには「年末大そうじ大作戦、我が家のニコエコプランをたてよう」というテーマがあります。「すぐに散らかる玄関をどのようにしたらよいか」という課題をもとに実践、評価までつなげるよう掲載されています。これは、家族の一員として日々の家庭生活の営みに積極的に参加する機会にもなります。

次に、開隆堂について説明をいたします。

はじめに、観点1・知識及び技能を習得させるための工夫について、4点ご説明いたします。1点目です。全ての題材の終わりに「生活に生かそう」の欄が設けられています。学習のまとめを確認するだけでなく、学んだことを家庭や地域などで活用することを促し、知識・技能の定着が図られるよう工夫されています。2点目です。易しいものから難しいものへと学習が系統的にできるよう配列が工夫されています。例えば、題材名においても、5学年では「クッキングはじめの一步」から6学年になると「できることを増やしてクッキング」になります。5学年ではゆでる調理を行い、6学年ではゆでる調理といためる調理の違いを確認した上で、いためる調理の実践に結びつけています。3点目です。調理や製作の実習手順が横流れで示されており見やすいです。また、写真とイラストの特性が生かされています。5年生の児童にとって初めての体験となる糸と針の扱いでは、針と糸の動きがイラストになっている部分もあります。ボタンのつけ方等、糸が赤く太く表示されているので分かりやすいです。4点目です。QRコードにアクセスすると、調理や製作の手順や実験などの動画が多数あります。振り返りや家庭学習にも活用することができるので知識技能の定着に役立ちます。巻末に「インターネットから参照できる資料」の一覧があり、確認するときに便利です。

次に、観点2・思考力・判断力・表現力を育成するための工夫について、3点説明いたします。1点目です。「4つ葉のクローバー」で4つの視点が示されています。生活についての見方、考え方がわかりやすく示されています。2点目です。全ての題材が3ステップになっているので問題解決的な学習が展開しやすいです。題材のはじめに掲載されている写真やイラストを活用することで、気づきや課題を見つけることができます。3点目です。題材の導入時に「学習のまとめ」がまとめて記載されています。例えば、題材「衣服の手入れで快適に」の学習のめあてはステップ1で「手入れの必要性に気づく」ステップ2で「手洗いで洗濯ができる」ステップ3で「環境を考えた手入れの工夫を生活に生かす」と記載されています。導入時に学習の流れについて見通しをもつことは児童の意欲を喚起することにも役立ちます。

最後に、観点3・学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫について、3点説明いたします。1点目です。個々の主体性を尊重して児童の興味関心を自分の言葉で記述できるスペースが設けられています。例えば、題材「ソーイングで生活を豊かに」では「どんなときに使う袋を作りたい?」、題材「衣服の手入れで快適に」では「衣服を脱いだ後、その衣服はどうしている?」と自分の生活との結びつきを考えることができます。2点目です。伝統的な生活文化や他国の例を示したり、年齢や性、障害の有無や国籍等の多様性を尊重したりした写真やイラストが随所に示されています。例えば、表紙のイラストや写真からも様々な人々との関わり

の中で自分の生活があることに気づきを促すことができるようになっていきます。3点目です。「2年間の学習を中学校につなげよう」のページを設け、中学校の学習との関連が見えるようになっていきます。小学校卒業期に、これまでの学びを振り返りながら自身の成長を自覚することは、自己肯定感を育むことに役立ちます。また、衣食住を中心とした生活の営みを大切にしようとする意欲や態度の育成につなげることができます。

以上です。

(議長)

それではただいまの家庭科の専門員長からの説明につきましてご質問、ご意見、いかがでございましょうか。

(委員) (意見等なし)

(議長)

よろしいですか。

それでは、以上で質疑を終了いたします。専門員長は、ありがとうございます。御退出ください。

(議長)

それでは、続いて、保健の専門員長に入室させていただきます。

(議長)

保健について説明をお願いいたします。

(専門員長)

皆さん、こんにちは。私は、保健科専門委員長を務めます。富士見市立勝瀬小学校校長の藤井でございます。どうぞ、よろしく願いいたします。

これより、保健科調査研究の結果を説明いたします。保健科では6者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしましては、「健康な生活への意識を高める内容について」、「適切かつ効果的な資料の掲載について」、「児童の思考を深める内容について」、の3つを設定し、その結果につきましてはお手元の報告書のとおりです。

それでは、東京書籍について、調査研究結果を観点に沿って報告いたします。

まず最初に、健康な生活への意識を高める内容についてですが、健康を害する行為への勧誘を断る場面等のロールプレイが盛り込まれており、学習内容が実生活と結びついていることを認知する一助となっています。適切かつ効果的な資料の掲載についてですが、動画資料ではスーパーコンピューターによるシミュレーションや特殊な資材等を用いた実験が提示されており、事象のメカニズムを理解しやすいようになっています。児童の思考を深める内容については、単元ごと・一単位時間ごとに学習の見通しをもつためのページが設定されており、①気づく・見つける、②調べる・解決する、③深める・伝える、④まとめる・生かすの4ステップ構造にまと

まっております、学習を進めやすくしています。新型コロナウイルス感染症の予防や、感染が広まってからの社会情勢の変化等、様々な立場の人への配慮等も見られました。

つづきまして、大日本図書です。健康な生活への意識を高める内容については、仲間との協働、教師や地域の人との対話、書籍や新聞などを手掛かりに健康への意識を高めることができるような内容になっております。適切かつ効果的な資料の掲載については、QRコードを使用して、ウェブサイトの情報を取得することができます。また当該ウェブサイトから関連省庁へのHPに移行することもできるため、情報源として活用しやすい作りになっていると感じました。児童の思考を深める内容については、他学年との関連についてアイコンでわかりやすく示しており、児童が体系的に知識を構成し、思考を深めることの一助になっています。また、教科書全体を通して文章が簡潔で必要な情報やキーワードを把握しやすい作りになっていると感じました。

次に、大修館書店です。健康な生活への意識を高める内容については、熱中症対応、心肺蘇生、AEDの使用法などについて、図説・フローチャートとともに掲載されており、実践意欲を高める作りになっています。適切かつ効果的な資料の掲載について、各学習内容についての学びを広げる資料ページが豊富で、多角的に学習内容をとらえる一助になっております。児童の思考を深める内容については、①考えよう、②話し合おう、③調べよう、④やってみようの4つのステップから学習が構成されており、資料と併用しながら理解を深めることができる内容になっております。また、新型コロナウイルス感染防止やSDGsなどの今日的課題についても触れられておりました。

次に、文教社です。健康な生活への意識を高める内容については、学習のめあてに対して児童の身近な例を示して考える部分が設定されており、自分自身の健康について見つめ直す事ができるよう工夫が見られました。次に、適切かつ効果的な資料の掲載についてです。一つ一つのイラストや写真に対しての説明が大きくはっきり書かれており、他者と比べても、比較的、見やすくなっていると感じました。次に、児童の思考を深める内容についてです。単元の最後に「もっと考えよう課」「もっと知っていこう課」というコーナーが設定され、より詳しい情報のリンク先のQRコードや発展的な学習内容の紹介がされており、児童の思考をより深める内容が工夫されております。

次に、光文書院です。健康な生活への意識を高める内容についてです。毎時間の導入で、児童が自分の生活と関連付けて考えられるように、問いが設定されており、学びを実生活に生かす事ができる学習の流れが工夫されています。適切かつ効果的な資料の掲載についてですが、児童の身近で活躍しているスポーツ選手やクリエイター等からのメッセージを随所に掲載し、健康な生活が自分の夢を叶えるための力、自己実現につながることを実感できる内容になっています。児童の思考を深める内容についてですが、他者と話し合っ考える活動や、自分の考えを他者に伝えたり、説明したりする活動が多く設定されていることで、思考力・判断力・表現力を育成することにつながる内容になっていると感じました。

最後に、Gakkenです。まず、健康な生活への意識を高める内容について

ですが、各時間のはじめに日常を振り返る場面が設けられ、健康との関係を考えることを通して、生活の仕方から健康課題を見つけ、自分自身の生活をよりよくする方法を考える事のできる内容になっていました。適切かつ効果的な資料の掲載についてですが、科学的な理解に結びつけられるように「かがくの目」というコーナーがあり、効果的な資料が多く掲載されていて、自分自身や自分の通う学校のデータを調べまとめなおすことができるよう、グラフ等のテンプレートがダウンロードできるようになっていました。児童の思考を深める内容につきましては、「自分で考える」「友達やみんなと考える」「身に付けたことを生かす」を3つのピースとした学習の流れを繰り返すことで、思考力・判断力・表現力を着実に身に付ける事ができる内容になっています。

以上で、小学校保健科の調査研究を終わりにします。

(議長)

ありがとうございました。ただいまの、保健科の専門員長からの説明につきましてご質問、ご意見、いかがでしょうか。

(委員) (意見等なし)

(議長)

よろしいでしょうか。

それでは質疑を終了いたします。専門員長は、ありがとうございました。ご退出ください。

(議長)

それでは続いて、外国語の専門員長を入室させてください。

(議長)

それでは、外国語について説明をお願いいたします。

(専門員長)

みなさんこんにちは。私は、外国語科専門委員長を務めます、三芳町立唐沢小学校、校長の廣井でございます。

これより、外国語科調査研究の結果を説明いたします。外国語科では、6者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしましては、まず「わかりやすく、学習者にとって使いやすいか」、また「指導者にとって使いやすいか」という観点で、また、「その他」といたしまして、教科横断的視点やSDGs、多様性への配慮等の「今日的な教育課題への対応について」の3つの観点を設定し、その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。

それでは、「東京書籍 New Horizon」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに、観点1についてご説明いたします。QRコードや、会話練習動画など、多彩なデジタルコンテンツが用意されており、ICTを積極的に活用する構成となっております。また、My Picture Dictionaryという別冊

の資料が付属しており、アクティビティは紙面上に書き込みながら取り組める構成になっているなど、授業時に教科書自体を使って学習に取り組むことができます。ただし、線で結んだり、記号を書いたりする比較的易しめのアクティビティが若干少ないと感じられる他、絵のカードは少ないため、教材準備が必要であると思われる。

次に、観点2についてですが、「CAN-DOの樹」で、2年間の学習を通して、児童と共有できるようになっている他、デジタルワークシートや、Google WorkspaceやMicrosoft Teamsの素材集が用意されていることも特徴と思われる。

最後に、観点3についてですが、他教科との関連も幅広く掲載されている他、SDGsに関するトピックも掲載されております。

次に、「開隆堂 Sunshine」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに、観点1についてご説明いたします。QRコードの他、別冊のワードブックで単語などの書き取りも確認しながら学習を進められる構成になっております。また、CAN-DOリストが巻末に、3段階で細かく記載されており、児童の振り返りや自己評価に役立てることができると考えられます。ただし、ワードブックが学年ごとに付属しているのですが、掲載項目、また掲載されている英単語はほぼ同じものとなっております。

次に、観点2についてですが、各Lessonの領域別評価規準が一覧にまとめられており、A評価、B評価の児童の姿についてもわかりやすく記述されております。また、教科書と同じイラストで各単元の確かめができる評価ワークシートが用意されております。

最後に、観点3についてですが、ユニットごとに他教科との関連についての記載がある他、SDGsに関するトピックや、多様性に配慮された登場人物が選定されております。

次に、「三省堂CROWN」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに、観点1についてご説明いたします。別冊の「My Dictionary」には、学習した表現の一覧があったり、CAN-DOリストが掲載されていたりと、辞書的な使い方と同時に参考書的な使い方をすることができ、2年間の継続した学びに役立つものと考えられます。ただし、My Dictionary自体のサイズが小さいためか、全体的に字が小さめで読みにくいと思われる。またCAN-DOリストが技能ごとの項目で書かれているため、児童が学びを確認しにくくなっていると思われる。

次に、観点2についてですが、児童にもわかりやすく提示できるよう、A評価・B評価を想定した発表や、やりとりのモデル、配布用ルーブリック、レッスン末に実施する確認用テストが用意されております。

最後に、観点3についてですが、道案内で、表現をプログラミングに関連させて、他教科との関連に意欲的に取り組む他、世界の多様性を意識した構成となっております。

次に、「教育出版ONE WORLD」について調査研究結果を観点に沿ってご報告したいと思います。

はじめに、観点1についてご説明いたします。QRコードを始め、デジタル

版では、録音・再生機能があり、発話の練習に使えるなど、レッスンごとに繰り返し音と文字に触れることができる構成になっております。ただし、辞書がmy word bankとし、別冊ではなく、巻末についているため、内容が少なめで、取り外せないことから、授業で活用するには工夫が必要と思われる。

次に、観点2についてですが、絵カードだけでなく、シールやアクティビティで使えるワークシートの付録など、授業をサポートしてくれる教材が多く用意されております。また、教科書の各レッスン末に児童が3段階で自己評価できるようになっており、単元ごとの振り返りを意識させた構成になっております。

最後に、観点3についてですが、他教科との教科横断的視点が散りばめられているとともに、表紙にも車いすに乗った人を登場させるなど、多様性に配慮されたイラストを使用しております。

次に、「光村図書Here We Go」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに、観点1についてご説明いたします。内容の異なるPicture Dictionaryが学年ごとに一冊ずつ、巻末から取り外して使えるようになっております。また、「All about me」という資料で、児童が自分のことを見つめながら学習に取り組むことができる上、しっかりとした作りなので、そのまま児童が発表で使用したり、後日教室に掲示したりできると考えられます。

次に、観点2についてですが、各Unitの観点別評価規準と、A評価、B評価の児童の姿について記述されているルーブリックが用意されております。ただし、5年の教科書には巻末にカードが付いていますが、6年には付属しておりません。また、冒頭にCAN-DOリストがついているのですが、評価がまたがっており、活用しづらいことがあるかと思われま。

最後に、観点3についてですが、教科横断的視点やSDGsに関するトピックなどが散りばめられている他、12か国の小学生の映像が用意されるなど、世界の多様性に触れ、国際感覚を養う構成となっております。

次に、「啓林館Blue Sky」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに、観点1についてご説明いたします。教科書全体で、選択型と書きこみ型の両方がバランスよく構成されている他、ユニットごとにアルファベットの文字と音についてのおさらいがあります。ただし、紙面はすっきりしているのですが、文字がやや小さめであり、表紙やイラストも児童の興味をひくものではないかと思われま。

次に、観点2についてですが、巻末に各Unitの5領域別のCAN-DOリストを掲載しており、教員の指導と児童の自己評価を共有できる構成になっております。また、単元の冒頭にGOALとして「めあて」が掲載され、STEP 1・2・3と、授業の流れを示唆してくれるものと思われま。

最後に、観点3についてですが、教科横断的視点やSDGsに関するトピックが散りばめられる他、ジェンダーによる社会的役割の固定観念を排除したイラストを用いております。

外国語科調査研究の結果の説明は以上となります。

(議長)

今、外国語科専門員長からご説明がございました。ご質問・ご意見はいかがでしょう。

(委員)

他の教科と比べて、外国語では動画であるとか音声の教材がとても多いというのですが、授業を進めていく上で必ずこういった教材を使うような教科書の流れになっているのでしょうか。

(専門員長)

はい。特にQRコードを各者ともに多く載せております。ただし、授業の中ではさほど使う場面というのは多くないのかなと思っています。むしろ、家庭学習で音を聞きながらもう一度復習ができるとか、そういった意味での使い方を多くしているかと思います。今後、タブレットの日常的な持ち帰りとかが進んでいくと、QRコードが多く活用されてくるのではないかと思います。

(議長)

よろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(議長)

他にはいかがでしょう。

よろしいでしょうか。

では議長の方から1点、このいくつかの教科書発行者に対して、やや専門員長の方から主観的な表現がありました。言い切り型のものでございましたので、ここは十分考慮した上で選定をお願いしたいなというふうに思います。以上でございます。

質疑を終了いたします。専門員長は、ありがとうございました。ご退出ください。

(議長)

続いて、道徳の専門員長を入室させてください。

(議長)

それでは、専門員長、説明をお願いいたします。

(専門員長)

よろしくをお願いいたします。私は道徳科の専門員長を務めます、ふじみ野市立福岡小学校、校長の鈴木孝雄でございます。

これより、調査研究の結果をご報告いたします。道徳科では6者について

て、調査研究を行いました。調査研究の観点は3つ設定しました。1点目として「道徳科の目標に関わる工夫について」、2点目として「考え、議論する道徳を通して道徳性を育成する工夫について」、3点目として「その他」を設定いたしました。その結果につきましては、お手元の報告書に沿ってご報告いたします。

はじめは、東京書籍についてご報告いたします。

まず、「道徳科の目標に関わる工夫について」です。ユニット数が5つと多く設定されています。「いのち」「いじめ」「じぶん」ユニットにはとびらページもあります。2年生から6年生は「いじめ」ユニットが6月の同時期に設定されていて2つのお話で構成されています。また、道徳科の目標に照らし合わせた1時間の学習の流れが掲載されており、発問例を2つに絞ることで指導法に合わせて柔軟な授業展開ができるように工夫されています。

次に、「考え、議論する道徳を通して道徳性を育成する工夫について」です。全教材にスライドショー、デジタルワークシート、心のメーターが使用できるようになっています。教材の終わりに「かんがえよう」という部分があります。考え、議論するための観点が明確に分かるよう視点が明示されています。しかし、指導者によっては、子供の実態に合った柔軟な指導につながらないことも考えられます。

最後に、「その他」についてです。各学年の情報モラルユニットには情報モラルテーマが設定されており、系統的に情報活用能力を身に付けられる構成となっています。

次に、教育出版についてご報告いたします。

まず、「道徳科の目標に関わる工夫について」です。定番とされている教材だけでなく、新規の教材も多くあり、多種多様な教材が扱われております。

次に、「考え、議論する道徳を通して道徳性を育成する工夫について」です。問題解決的な学習や役割演技の流れなど、教材によって具体的に示されています。また、「モラルスキルトレーニング」・「イラストから学ぶ」・「マンガ形式」等の多種多様な教材があります。

最後に、「その他」についてです。全教材についての二次元コードには教材の解説があったり、学びを広げたり深めたりするための外部リンクなどのデジタルコンテンツが用意されているので、個別に学習の理解を深める手段となります。

次に、光村図書についてご報告いたします。

まず、「道徳科の目標に関わる工夫について」です。2年生以上は目次の①に「道徳がはじまるよ」に内容項目のとびらが入っています。2年生は19、3・4年生は20、5・6年生は22の内容項目や話し合いの仕方、すごろく型目次の道案内もあり、一年間の学習を見通せるようになっています。

次に、「考え、議論する道徳を通して道徳性を育成する工夫について」です。「考えよう、話し合おう」では発問構成が詳しく書かれているため、指導者によっては多様な学習活動に結びつきにくくなりことも考えられます。指導者の工夫が一層求められます。また、教材の中には場面絵を提示して思ったことを話し合うことができるのでそのことで考えを深めて

いけるような教材があります。

最後に、「その他」についてです。二次元コードには朗読やアニメーション、インタビューなどの資料映像、思考ツールの使い方など教材に応じたコンテンツが用意されています。

次に、日本文教出版についてご報告いたします。

まず、「道徳科の目標に関わる工夫について」です。全学年に人との関わりに関するユニットが年3回設定されています。また、自分のよさを見つめられるような教材が重視され、自己肯定感を高める活動や知識がコラムに掲載されています。

次に、「考え、議論する道徳を通して道徳性を育成する工夫について」です。主題名、教材名、導入の問い、リード文と情報量が多くなっていることが指導者によっては扱いにくい面もあります。しかし、教材とは別にねらいとする道徳的価値の理解を深めるための手立てとして、授業展開の一部が、「グッと深める」として掲載されているのでねらいに応じて授業を組み立てることができやすいと考えられます。

最後に、「その他」についてです。QRコンテンツは全教材で音声やワークシート、心情メーターの道具箱が使用できるようになっています。

次に、光文書院についてご報告いたします。

まず、「道徳科の目標に関わる工夫について」です。付録がついているので教材数が多くあります。そのため、ねらいに即した教材を選択することができるので学校や地域の実態などに応じて弾力的に取り扱えるようになっています。また、発達段階に応じたテーマが設定されています。

次に、「考え、議論する道徳を通して道徳性を育成する工夫について」です。教材に「2つの考えよう・まとめよう・ひろげよう」と4つの発問例が載っています。発問例にこだわりすぎてしまうと発問が多くなりすぎてしまうので教師が工夫していかなければなりません。オリエンテーションページには思考ツールや対話ツールが紹介されているので教師の工夫で活用の幅が広がります。

最後に、「その他」についてです。身近な話題を通して情報モラルが学べる教材やコラムが掲載されています。

次に、Gakkenについてご報告いたします。

まず、「道徳科の目標に関わる工夫について」です。教科書のはじめとおわりに自分について記述する欄が設けてあります。このことにより自分のことをじっくりと見つめることができます。また、人の生き方から学ぶ教材が多く掲載されています。先人だけでなく様々な分野で今を生きる人たちを取り上げている教材も多くあります。子供にとっては教材の主人公を身近に感じることができるので憧れを抱きながらも自分だったらと自分のこととして考えることができます。

次に、「考え、議論する道徳を通して道徳性を育成する工夫について」です。多面的・多角的に考えられる特設ページが教材とは別のページに設けられています。このことによりねらいに応じてその手立てを活用することや別の手立てで授業を組み立てることができるので、多様な授業展開を作り出せることが考えられます。

最後に、「その他」についてです。情報モラルについて児童の発達や成長に合わせた教材と特設ページが取り上げられております。また、教材に

| | |
|-------|---|
| | <p>よって学びを深めるデジタルコンテンツが用意されています。授業の導入で使ってみたくなりそうな動画やみんなの道徳クイズ、考えを深めることができるワークシートなどがあり子供たちの興味もひくことができるようになっています。</p> <p>以上です。</p> <p>(議長) ありがとうございました。ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見はございますでしょうか。</p> <p>(委員) (意見等なし)</p> <p>(議長) よろしいでしょうか。 それでは以上で質疑を終了いたします。専門員長は、ありがとうございました。ご退出ください。</p> <p>(議長) これで予定されていた報告は終了となりました。事務局から、その他の協議事項はございますか。</p> <p>(事務局) 特にございません</p> <p>(議長) それでは特にないようですので、以上をもちまして議長の任を解かせていただきたいと思います。長時間にわたり、慎重なご審議、ありがとうございました。</p> <p>(司会) つづきまして、諸連絡にうつります。事務局よりお願いします。</p> <p>(事務局) 第3回協議会につきましては7月24日月曜日午後1時から三芳町役場301会議室でお実施を予定しております。よろしく願いいたします。以上です。</p> <p>(司会) 以上をもちまして第2回第10採択地区協議会を閉会いたします。皆様、長時間の会議、大変ありがとうございました。</p> <p>(一同) ありがとうございました。</p> |
| 5 諸連絡 | |
| 6 閉会 | |